

### 第三回 あるかぼーと・唐戸エリアマスタープラン推進会議 議事録

日時	2024年6月3日 17:00～18:30
場所	市役所 本庁舎西棟5階 大会議室
参加者（委員）	下関市 前田市長 下関商工会議所 嶋本専務理事（川上委員代理） 株式会社山口フィナンシャルグループ 村田執行役員地域共創事業本部長（棕梨委員代理） 一般社団法人下関観光コンベンション協会 富永会長 株式会社星野リゾート 森国内企画開発グループプロジェクトマネージャー（星野委員代理） 一般社団法人下関21世紀協会 中野理事長 協同組合唐戸商店会 倉本理事（山口理事長代理） 山口県飲食業生活衛生同業組合山口支部 青木支部長 学校法人國學院大學 梅川教授 公立大学法人下関市立大学 杉浦副学長

#### I 開会

前田委員長 皆さんこんにちは。こんにちは下関市長の前田慎太郎でございます。今日はマスタープランの推進会議第3回目です。大変お忙しい中皆さんお集まりいただきまして本当にありがとうございます。早いもので、立ち上げてからちょうど1年が過ぎたということでございます。いろいろ思い出すと様々な記憶が蘇ってくるそれぐらい、私もこの7年間市長をお預かりする中で、この素晴らしいウォーターフロントを作っていくという取り組みの中で様々な思いで、そして皆さんにご協力いただいた、節目節目の場面があるわけでございますけれども、今年の3月には、様々な実証実験、ライトアップ、大噴水そしてクルーズを使ってですね、下関のこのウォーターフロントを今一度磨き上げるためのコンテンツを社会実験を通して確認をできたわけでございます。

私達はやっぱり日頃、下関市民は見慣れている海峡の景色、そして海から見た下関の景色がですね、光と噴水を使うことでこんなにまた美しく磨き上がるものなのかということを改めて確認することができましたし、いよいよ来年星野リゾートさんが、今、ホテルを着実に建設を進めていただいておりますけれども、このホテル完成とともにですね素晴らしいこの観光コンテンツを誕生させて、多くの方々にお越しをいただきまして、素晴らしい下関の時間を楽しんでいただくということです。

こういう我々は下関でやるべきことを一つずつ、この会議を通してやっていかななくてはいけない、進めていかなくちゃいけないんですが、この世の中のいまの観光におけるバックグラウンドというのも非常に追い風があるわけでございます。2025年は大阪万博ということで、大阪の方をみんなインバウンドは見てるよと。そして大阪と京都と東京に遊びに行ったら、そのままお国に帰ってしまうんじゃないか、そうじゃなくて、この西側の方にも素晴らしい街があり、景色があり、食があり、楽しむ場所があるんだからそれをしっかりPRしていくということで、この西のゴールデンルートアライアンスという組織が先日誕生いたしまして、福岡の高島市長を中心に、多くの自治体や関係企業の皆さんやDMOの皆さんに参加をいただいて今そのストーリーを作って、西側にお客さんと呼んでいこうという取組を行っている。2025年には山口県は

ディスティネーションキャンペーンをJRからお認めいただくこととなります。ディスティネーションキャンペーンはプレとアフターも含めて3年間ありますので、この25年26年27年が、非常にこの観光にとって追い風です。様々なそういう素晴らしい下関の伸びしろといいますか追い風といいますか、皆さんそれぞれ受け止め方が違うと思いますが間違いなくそういうものが来てますので、我々しっかりとこれから今日も素晴らしい会議になると思いますが、目標とするべきものをですね、しっかりと共有、確認をし合ってくださいね、素晴らしいウォーターフロントを作っていきたいというふうに思っております。

忌憚ないご意見を今日しっかりいただきます。傍聴の皆さんもたくさんお越しいただいて本当ありがとうございますみんなで素晴らしいウォーターフロント作りしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。ありがとうございます。

## 【委員紹介】

司会より出席委員を紹介。

下関商工会議所 嶋本専務理事、株式会社山口フィナンシャルグループ 村田執行役員地域共創事業本部長、一般社団法人観光コンベンション協会 富永会長、株式会社星野リゾート 森プロジェクトマネージャー、山口県飲食業生活衛生同業組合 青木理事長、一般社団法人からまち 倉本理事。

## II 議事

### 【1. 2025年(令和7年)秋の目指すべき全体像】

デザイン会議（カイキョーエリアマネジメント吉田委員・木村（大）委員、熊谷委員、長町委員）より、資料に基づき説明（説明の詳細は議事録では割愛）。以下審議。

富永委員 全体的なイメージなんですが、このパースに上がってくるイメージっていうのは何となくおしゃれでスマートな場所をというイメージがあるんですけど、そこに市民も普段使いをするような感じで、市民の皆さんもどんどん入ってくるというような形になると、そのおしゃれなイメージ、別に悪いというわけじゃないんですが、おしゃれのイメージが崩れていくような、どっちを目指してるんだろうなっていうのがちょっとわからないっていうのがありましてね。パース見ると、何となく欧米人の絵がやたら多いですけど、これって観光客相手としか言いようがない。

要はですね何が言いたいかっていうと、そこは全体的に何でもかんでもいいよということじゃなくて、ある程度一つこういう感じでいきますよ、そこに市民の皆さんが参加しますよっていうふうな方がわかりやすいのかなと思います。

市民の皆様のためにも、何かこういうこともやってああいうこともやって、もっともつとあの辺に来てくださって言うんだけど、なかなか今までもいろんなライトアップやったりなんだりすると、最初は来るんですけどもすぐ飽きちゃう。大体そういうような感じが多かったんですが、その辺どうなんでしょう。ちょっと私はそこが非常に疑問があるなっていうふうには思っています。だから正式に観光客向けとした方が私はわかりやすいのかなと思ってんですけど、いかがなんでしょうか？

長町デザイン会議委員 私達が行っている観光まちづくりというのは、市民の人が最高に誇りがあって、もう人に来て欲しくて自慢したいそういうまちをつくと、観光客も来なくなる。このやり方を信じています。例えば、私が行っている神戸市のウォーターフロントでは、観光客以上に市民の方が来てます。これはやり方次第なので、理想はですね、おしゃれなもの、じいちゃんばあちゃんがそこでガンガン楽しんでるみたいな世界観です。老若男女が新しい仕組みの中で、こんな楽しみ方もあるんだっていうのを見つけ出して、楽しめる。なので灯りに関して言いますと、やっぱりイベントで一発花火は絶対駄目なんです。だからプロジェクションマッピングとかではなく、日常的にいつも素敵な海岸とかデートに何回も使う、そういうような場所に育てていくために総力を結集して、そのためには美味しいものを食べれないといけないし、

座れる場所もあるし、もちろん灯りは、いつも素敵で飽きない。これは方法があります。いつも素敵だけど飽きないようにする、そういうことを仕掛けていけばいいんじゃないかと。

ご心配はごもっともだと思うんですが、観光客向かってというのは私達は狙ってなくてですね、市民の方が誇れて、だから観光客も来たい、これを目指そうとしております。

富永委員 要は私のそのイメージ的な問題なんですけどね、欧米人が英語が飛び交うような感じなのか、バリバリに地元の下関弁が飛び交うような感じなのか。下関の場合いろんなことやるけどなかなか馴染めないところがあるんだと。私だけが思ってるか、ちょっと微妙で、なかなかニュアンス的に言いにくいんですが、確かに地元の人たちがどんどん参加をしてくれて、皆さんがそうやって思ってくれたら一番ありがたいというふうには思ってるんですけど、何となくまだまだ心配があるっていうことが、現状ですね。全部が全部欧米人のイメージが先行しすぎちゃうと、そういうふうにとられてしまうのではないかなという感じもしております。

長町デザイン会議委員 露出するパースはもう日本人ばかり入れていってということにして、実際は本当に下関の市民の方が来られてますんで、ご心配には及ばないと思うんです。びっくりするぐらい、若い方たちが自分たちで来られてます。

前田委員長 欧米人のイメージは、今の写真のどの部分にあつたかという、欧米人っぽい写真たちが写ってただけで、コンテンツが別に欧米人向けに作っていたわけじゃないじゃないですか。このデザインとかね、日本人や日本の文化に全く合わないよねっていうものではなかったと思うので、結論は今の長町さんが言われたように、日本人に全部すり替えたらいいのかなと思います。ただ、心配はありますよ。下関がこれまでね、新しいことやっても最初はワっていきんだけど続かなかつたっていうのは確かにあるので、でもそこはやっぱり乗り越えていく、その壁を乗り越えないと、やっぱり継続的な発展であったり、この30年間50年間、これからこの町は観光でもばっちり大丈夫だよっていうものを目指してみんなでやってるわけですからそこは当然クリアしなくちゃいけないかなと思ってます。

森委員代理 星野リゾートの森でございます。資料を先行して星野佳路の方ともディスカッションして、今日臨んでおります。私個人の意見というよりは当社としての意見というふうには捉えていただければと思います。その中で代表がこれだけは皆さんに改めて共通認識を持っていただきたいと申し上げていたのがですね、やはり観光業であったり、飲食業、日本を代表するウォーターフロントということで目標を掲げた中で、そういった観光業・飲食業が下関で成長産業として持続的に育っていく上では、やはり需要の平準化というのが一番重要な課題なのだと。それっていうのはやはり冬の集客であったり平日の集客であったりそういったところをしっかりと人を引きつけられること、ここにこそ投資しなければいけないんだということに関して改めて皆さんと共通認識を持ちたいという話をしておりました。

その中でまずはベースの下関の方々がいらっちゃって、その先に首都圏の観光客がいて、やっぱり平日の中を埋めるものとしてインバウンドというものがある、というようなことになってくると思うんですけれども、その中で先ほどご提案いただいたようなモバイルファニチャーの取組とか、やはりその岸壁の利用というのは非常に一般的にハードルが高いと言われていたものを下関が先行して実現して、それが日常的に使われている風景っていうのは非常に地元の方々にとっても魅力的であると思うし、下関にしかない景色になりうるものだと思いますので、非常に素敵な取組になるんじゃないかなというふうには思っております。やっぱりその灯りが灯ることで海際こそウォーターフロントの魅力なんだというのが水際の魅力なんだっていうことを発信する上ですごく素敵な取組になっていくんじゃないかなというふうには感じております。

一点やはりちょっと代表とも議論になったのは、あの大噴水のあり方です。夜の大噴水は非常に素敵なシーンになっていて写真映えもするものになっていたと思うんですけれども、やはり先ほどの平日および冬の集客っていうことにこそ投資をすべきだというときに、あの噴水っていうものがどうなのか。常設で常に出続けているというものになると、先ほど皆さ

んおっしゃられたように最初は目を引くだけでも、最初だけニュースになって結局皆さん当然のものになってしまって、それで集客できなくなってしまうということになると結局その投資の対象効果としてベストなのかという話になるかと思うので、例えば我々でしたらリゾートで冬だけ出現するアイスヴィレッジみたいなものがあつたりだとか、青森の施設では冬になるとねぶたや湖に浮かぶ露天風呂みたいなもの、これを冬だけやっているとそうやって季節限定のイベントを主とすることで毎年毎年ニュースになって露出をしていくことができるというところがあるので、集客のアイコンイベント、そういったものってのは非常に重要だと思う一方で、それをいかに効果的に露出していかそれをやり続ける方がいいのか絞って実現していった方がいいのかっていうところは議論していければ良いところなのかなという話をしておりました。当社から以上でございます。

長町デザイン会議委員 貴重なお話ありがとうございます。まさにおっしゃる通りで、閑散期に、そして平準化したいっていうのはもう常に私達も議論してまして、下関の閑散期がどなのかっていうのが、一番まだはっきり絞れてないっていうところがあって、例えばフグは冬に強いですね。カコとかフグとかっていうのは、もうちょっとそっちをしっかりとやっていう違う作戦もあるだろうとか、今年度もまたこの議論をすごくやっていく意識を持っています。そういった話はあるとして、例えばさっきの噴水の話なんですけど、これ音楽噴水の予定です。音楽と同調してプログラムが行われるものなので、季節とか毎年冬ならではの新しい音楽が流れるとか、ニュースソースに定期的に出していく必要があることは、自覚してまして、そういうシーズンごとに地元のニュースソースになれるような仕掛けを、常設の舞台でも仕掛けたい、そういう設備で臨みたいと思っています。音楽との連動の噴水っていうのは日本に少ししかありませんので。

熊谷デザイン会議委員 先ほどの富永さんの質問にも関わることかもしれないですけど、今回の景観整備ですごく他と違う大きなポイントがあるとすれば、いかに人々が参加できるようなものを作っていくかということにかなり注力してやっているということだと思います。

モバイルアーキテクチャやモバイルユニットなんかにしてもそうですし、前回お示した新しい緑地の設計にしてもそうです。唐戸船だまりのあり方にしてもそうです。例えばカモンワークのテナントに入ってみたいと思う人がどれだけ増えるかとかですね、あそこにちょっと屋台を出して、軽い商売をして自分も自信をつけたいっていう人が参加できるかですかね。そうやって様々な可能性がそこにはあるということを考えてもらえるような受け方というか、構え方みたいなものが、全体のあるかぼーと地区を作る上で非常に重要なポイントなのかなというふうに思っています。

なので夜も行ったらすごく気持ち上がるような景観は必要ですし夜もやってみたいと思えるような、照明を含めたインフラも必要ですか季節の平準化、平日やってみたいと思えるようなことも、それぞれですね、いろんな人たちがいろんな参加の仕方ができるような仕組み作りこそが、今回のあるかぼーと地区のマスタープランで語られてた大きなことなのかなと思いますので、そのあたり引き続きですね、議論していけたらなと思いますし、いろんな可能性を接続できるような、そういうやり方を作っていけたらなと思っています。

森委員代理 日本を代表するウォーターフロントっていうことをドーンと掲げた意味っていうのは、やはりその地元の方だけじゃなくて、その日本でここにしかない景色を作ることによって、やはり長期的には広域からの観光客・インバウンドっていうところを見据えていかないと、長期的な持続的な成長っていうところが考えにくいっていうところが背景にありますので、そういったところの差別化ですか、日本の国内のウォーターフロントあるいは海外含めて、下関だけでこういうシーンが作れるっていうところは我々のホテルもそうですけれども一緒になって作っていければと思っておりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

## 【2. 交通・駐車場に関する検討】

都市計画課及び共創イノベーション課より、資料に基づき説明（説明の詳細は議事録では割愛）。以下審議。

杉浦委員 夜の公共交通のアクセスっていうのも検討材料に加えていただけるといいかなと思ってまして、たまたま最近ちょっと唐戸地区で飲む機会が多かったんですけど、帰りが大変なんですね。バスは9時半ぐらいで終わっちゃいますし、タクシーは最近台数が減ってるのか、呼んでもなかなか来てくれないというところで、せっかく先ほど魅力的なご提案いただいたんですけども、夜終わった後帰れないというようなですね車で来るとどうしても飲めなくなってしまいますし、そういう意味で実証実験ができるかどうかわかりませんが、イベントのある日だけでも少し遅い時間までバスなりなんんりの交通手段を用意するとかですね、福岡なんかですと深夜バスみたいな料金倍だけど最終バスの後に走るみたいな、そんなのも過去ありましたので、そういったところも少しご検討いただけるとありがたいというふうに思っております。

共創イノベ課 貴重なご意見ありがとうございます。我々今正直議論しているところですね、渋滞をどのように緩和していくかっていう視点が中心となっておりますので、夜の交通というところご意見いただきまして、改めてデザイン会議とかですね、協議の場で新たなテーマとして何かしらできるものがあるか、今取り組んでいる政策は何なのかっていうところですね、ちょっと取りまとめた上で検討してまいりたいと思います。ありがとうございました。

北島事務局長 このエリアだけに限らず、やはりどうやって市民の皆さんの足を確保していくかという大きな問題だと思っておりますんでそういう意味では、市全体の交通の議論の中でもしっかり議論していければいいのかなというふうに思っているところでございます。

森委員代理 星野リゾート森でございます。ご説明ありがとうございます。我々観光業の専門家ですので、こういった交通のところの専門というわけではないんですけども、先ほどのお話と共通するんですけども、やはり駐車場の問題においても、やっぱり根本にはその需要の平準化っていうところを考えていくところとセットなんじゃないかと代表とも話しておりますので、やっぱり土日に集客が集中して渋滞が起きるっていうところは、唐戸市場のお寿司のイベントが大変人気であって、そこに集客が集中しているということが根本にあるのだと思っております。だからイベントを平日にやってくださとかそんな単純な話ではないっていうことは重々民間の取組でわかっておるんですけども、そういったところの需要が過度に一時期に集中しすぎてしまわないような平日の賑わいにいかに分散させていくかっていうところとセットで、駐車場の取組っていうところかを考えていかないと、やはりその平日ガラガラな駐車場をたくさん増やしたいっていう意図ではもちろん皆さんないと思いますので、そういった分散をしっかり考えた上でそれでも足りない部分を増やしていくんだとそういうような発想が根本じゃないかというような話をさせていただいておりました。

あとは既存のいろんな駐車場を活用しながら資料のところ集中することを避けていくっていうこともそういった分散の取組みの一つだと思うんですけども、そうしたときにやはり来街者の方が遠く止めさせられて不便であったみたいなどころが悪い印象に繋がってしまうことは避けなければならないと思うので、今港湾局さんとかでもご検討いただいているとお聞きしておりますけれども、そういったモビリティのお話やっば海辺の移動自体を楽しんでいただくっていうことも、あるかぽーとエリアの非常に強い魅力になっていくんだと思いますので、そういった駐車場の分散ということと、移動自体を快適に楽しくしていただくっていうことをセットで考えていけると全体の魅力を高めながらそういった不便の解消っていうところに繋げていけるんじゃないかというふうに思っておりますので、そういった視点でぜひ引き続きご議論いただければと考えております。

北島事務局長 まさにおっしゃっていただい通り、需要をしっかりと分散してちゃんと皆さんが繁忙期だけのピークに合わせるってやはり無駄が生まれますから、なるべくしっかりと需要分散して、皆さんが通年通して儲けられるようにちゃんと皆さんに来ていただけるようにしましょうということ、それから駐車場の方もまずは分散をしましょう。ただ、遠くに行くと不便なだけになってしまうのでそこにも新しい価値をですね、体験価値をしっかりとつけていこうという話だと思います。いずれもおっしゃる通りだというふうに思っていて、デザイン会議の方でもまさにご紹介いただきましたけど、去年はグリーンスローモビリティをやり、今年はまだちょっとパーソナルモビリティも検討してみようかという話もしておりますけれども、その辺もあわせてですね、課題とさせていただきます引き続き検討してまいりたいと思います。

### 【3. 2025年(令和7年)秋を見据えたロードマップと今年度の取り組み】

北島事務局長より、資料に基づき説明。以下審議。

梅川委員 最後副市長ご説明されたこのエリアマネジメントなんですけども、それぞれやっぱりみんなコストのかかる事業が並んでいる。照明についてもすごく美しいんですけどやっぱりコストがあるし、あるいは噴水にしても素晴らしいんだけどコストがかかるだろう。これずっと税金で賄うってのはなかなか難しいと思うんですよ。そうするといかに収益の構造を確保してその収益をそういったところに還元していくっていうか、オペレーションに回していくっていうその循環を作っていくかというのを思っています。それがやっぱり、持続可能な地域づくりってことになると思うんですよ。そうすればこれエリアマネジメント組織を早く立ち上げて、これ私何度も言ってるんですけど、その辺の収入と出ていくお金のバランスをしっかりとっていくか、なかなか市民の皆さんの賛同も得られないだろうから、その辺は前倒し前倒しでですね、早く検討して早く組織を作って、これだけの収益が確保できそうだから、こういったことができるんですけどいうロジックを作られた方がいいと思うんですね。ここに書かれてると本当魅力的で、世界に名だたる海峡になり得る可能性を持っていて、その辺のマネジメントがしっかりとできるような構造を考えていくということかなというふうに私は思いました。

北島事務局長 そうですねまさにはエリアマネをどういうふうに進めていくのかによって皆さんの納得度も全然違うと思いますし、とても大事な観点だと思います。ありがとうございます。今ですね2年間にしてるのは、元々ここで作りましょうという予定にしておいたからってことももちろんあるんですけども、やはり、実際にはおっしゃっていた通り収益と支出ですよ。これがある程度見えないと議論としては完成しないのかなと思ってまして、その意味では、先ほどのモバイルユニットとかですね作ってみてどのぐらいその維持費がかかって、誰がやるかどうかってのはそもそも議論ですけど、維持補修であつたらやっぱり管理運営ですね、管理運営にどれだけ人手とコストがかかるのかとかですね。あるいは収入の方もですね先ほど駐車場のお話ありましたが、例えば駐車場収入でっていうのはエリアマネ会社としては、すごく世の中一般的な方法かなというふうに承知してますけど、それをやるとして今実証実験やっていますが、いくらだったら停めてもらえるんですかねとか、それによっていくらまで停めてもらえるんですかねとか、そういったものによってですね収入の見込みも全然変わってきますんでそういった実証を、やはりしっかりとやりながらですね、その支出と収入のバランス、それによってどこまでこのエリアマネ会社が担うのかといったことを今後議論していければなというふうに思っております。

### 【まとめ】

北島事務局長 以上で全ての議題終了いたしました。ありがとうございました。それではですね、最後の意思確認といいますが、推進会議と市長ご意見というのを決定をいただきたいというふうに思うんですけども、市役所と我々下関市としてはですね、このロードマップ方向性で進めていくということで、皆様ご異議ありませんでしょうか？

→異議なし

北島事務局長 ありがとうございます。この方向に向けてですね、最大限市民の皆様、議会の皆様、事業者の皆様とともに取り組んでまいりたいというふうに思います。ありがとうございました。それではですね、以上をもちまして予定をしておりました議題全て終了いたしましたので、これで終わりたいと思いますけども、最後にぜひこれだけはという方いらっしゃいますか。

富永委員 すみません、何度か申しましたけど、私の思いはやはりこの日本一のウォーターフロントシティになるということで、関門海峡がここに全てあるんですけど、ぜひとも今の皆さんのいろんな知識を入れながらですね、非常におしゃれでスマートな全国に誇れるまちにしていきたいというのが一番です。一つの例を挙げますと、唐戸市場のところ土日は非常に皆さん来られていいんですけど、今はあの言葉を変えて、海峡の風が楽しみながら食事ができるっていうんですけど、地べたに座りながら食べるっていうのはどうも私も心苦しいっていうのが、ずっとあるんです。そういうことが将来的にはなくなるように、そこに私がこだわってるスマートでおしゃれっていうところが、先ほどもいろいろ申しましたけど、そういう意味を持って、ぜひともやっていただければなというふうに思っております。よろしくをお願いします。

北島副市長 まさにさっきモバイルユニットの方、市場の周りも考えてというお話もございましたけれども、やはりですねどういう姿を作っていくのが一番市民の皆様の誇りと、それから外から皆さん来た皆さんの憧れになるようなまちになるのかという観点からですね、引き続き頑張って参りたいと思います。ありがとうございます。

#### 4. 閉会

前田委員長 皆さん大変お疲れ様でした。3回目の会議になりましたけど、着実にですね一步一步前進、皆様のおかげでできてんじゃないかなと思います。

このロードマップですね、一つ一つ事業は大変たくさんありますが、ポイントとしてはですね星野リゾートさんが来年秋に開業される時にまでに、先ほどの四つの目標をですね、どこまで上げることができるかということが一つですね。そうするとかなり時間がない、少ないですよ。行政っていうのは、大変民間の皆さんにはなかなか理解してもらえないような様々な制約とルールがあります。一つは、当初予算を3月に作ってですね、それまではなかなか新しいことできなかったりするんですが、今回に限っては、そういう意味では緊急性が問われるんじゃないかなというふうに思いますので、これは補正予算もやむなしで、積極的にやっていくと。今日は財政部来てますかね、しっかりとですね、庁内を上げて前倒しで進めていくという理解をですね皆に持っていただきたいということですね。

それから、先ほど富永委員からですね、貴重なご意見いただきました。インバウンドや外から来た方々に向けてなのか地元に対してなのか、どちらなんだってこちらどちらもそんな議論大切なんですが、なかなか難しいところであるんですが、おっしゃる通りやっぱり地元の皆さんにね、やっぱり心底愛してもらいまちづくりでないと、観光づくりでないとけないっていうのは、私第1回目のこの会議でも申させていだいたと思います。華やかになっても地元の人が住みにくかったら駄目だし、本当にね、地元の方々に向けてまち作りをやっていきたい。先日ですね5月の頭ぐらいだった連休のちょっと前ぐらいかな、今年少し桜が遅かったじゃないですか、そのおかげでチューリップと桜の混在しているすごくいい景色を見るシーズンがあったんですよ。連休のちょっと前だったと思うんですけど、自分で、Tシャツになって火の山に登ったんですね。ものすごい人が来ててですね、地元の方ならわかると思うんですけど、上から上がる車の道と下のロープウェイの入口に入る道がありますけれども、ロープウェイから入る道はチューリップがあるのでそちらに行きたかったんですが、結局入れなかったです。大渋滞で仕方がないので上のルートから行ったんですけど上のルートも、もう本当に多くて、その車がほとんど下関ナンバーでした。そのとき嬉しかったんですよ。下関の皆さんが、これは今日は絶対火の山に行ったらめっちゃくちゃいい景色を見れるなって、すごくみんな家族でね、子どもたちとかわんちゃん連れてたりして。そのときに思ったのが、これはまずいと。火の山も早くせんと怒られるなって思ったんですよ。案の定ですね。翌週仕事に戻って、何か民間の会議とかで2回ぐ

らい怒られたんです。火の山を早くしろと言われてまして。何が言いたいかっていうと、既にこれだけの事業もありますけど、火の山も火の山でさらにこの開発をもう数十年ぶりに進める準備がほぼ整っておりますので、間違いなくこれを目指して来ていただける観光客に対してですね素晴らしいコンテンツになると思います。また動線ですね、この唐戸との動線のこともしっかり考えていかなくちゃいけないから駐車場対策の議論はですね、さらに推し進めていただきたいと思います。

梅川教授からもご意見いただきました行政のお金・税金だけでやっていくじゃなくて、あの構造的にしっかり収益もとれるようなスキームを作りながら、恒久的にですね、皆さんの気持ちよくこの回していけるような状態っていうのは当然必要かなと思っております。今日は非常にいいご意見をたくさんいただきまして、傍聴の皆さんもたくさん来ていただきまして、これからみんなでもたまちづくり、いろいろご協力いただきたいと思っております。今日推進会議これで私のご意見とさせていただきます。本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

以上